



東日本大震災により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧がなされますことをT・TAKメンバー同、お祈りいたします。
今、私たち一人一人が何をすべきかを考え直し、行動に移したいと考えています。

6階病棟(診療体制)を紹介します！

***お忙しいところ申し訳ございませんが、はじめに6階病棟の看護の特色を紹介してください。**

病床数は52床で、おもに内科・皮膚科の混合病棟です。
内科に関しては、平成22年4月より呼吸サポート、CAPD（連続携行式腹膜透析）、摂食機能訓練のチームを編成し、スタッフ全員で専門的看護の提供ができるよう、日々頑張っているところです。

各種サポートチームを簡単に説明しますと

・呼吸サポートチーム

呼吸器疾患の患者さんに対し呼吸訓練（口すぼめ呼吸、腹式呼吸）などを行い呼吸機能の改善に取り組んでいます。

・CAPD（連続携行式腹膜透析）チーム

安全、正確に腹膜透析を実施できるよう専門的知識、技術を身につけて頂き、ご自宅に戻られても正しい自主管理のもとに、自信をもって日々の生活を送っていただけるようサポートします。

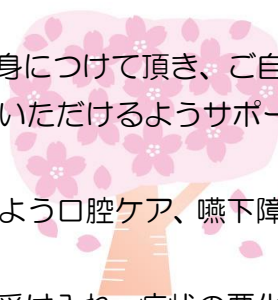
・摂食機能訓練チーム

食事摂取の満たない患者さんに食事をおいしく食べて頂けるよう口腔ケア、嚥下障害治療に取り組んでいます。

次に皮膚科においては、主にアレルギー疾患患者の入院を受け入れ、症状の悪化予防に努めています。スタッフ同士の会話が激しく、見るとビックリされることもあるようですが、それは仲がいいからで、患者さんにより良い看護を提供できるようにディスカッションしているんです

***6階病棟に勤務されている看護師を紹介してください**

観察力が鋭く、シビアな反面、スタッフとのコミュニケーションを大切にしてくれ、頼りがいある師長。とてもスピーディーに仕事をこなし、いつでもスタッフの事を考えてくれている主任。体力重視の勤務状況の中、救世主の男性看護師1名。一人ひとり個性が違い、毎日違う雰囲気の中で、明るく笑顔で患者様にゆとりのある看護ケアを提供します。



病棟理念として「健康を願う人々の^{こころ}精神と^{からだ}身体にあたたかい医療を」をモットーとして、患者さんが満足できる看護ケアを実践するため患者さんと共にケア計画を立案し、チームで実践に移し患者さんにとって充実した入院生活がおくれるよう業務に取り組んでいます。

*** 森田医師は相生市健康大学講座などでもおなじみで地元で知らない人はいないといわれるほどの名物医師です。6階病棟の印象を伺ってみました。**

6階病棟は土井師長のもと、チームワークもよくまとまっており、大変雰囲気の良い病棟です。皮膚科の患者さんも多数入院されており、評判もいいですよ。毎朝、外来診察の前に6階病棟に行くのですが、病棟スタッフがいきいきと患者さんのために働いている姿をみると、私も元気になり今日も頑張ろうという気持ちになります。4月からは新しいスタッフを迎えますので、また心機一転の気持ちで共にがんばりましょう。



*** 内科部長の中道医師(日本糖尿病学会専門医)からもコメントをいただきました。**

6階病棟は慢性腎臓病の精査加療目的の入院、その生活指導、あるいは血液透析や腹膜透析導入時の入院、ならびに維持透析中の患者さんの受け入れなど重要な役目をもった病棟で、やさしい看護を意識することで病棟全体が雰囲気よく、入院された患者さんからも人気の病棟だと感じています。



*** 最後に平成23年度の目標をお聞かせください。**

6階病棟看護目標

1. 看護ケア・看護実践の向上を図り、専門性の高い看護を充実させる。
2. 医療安全意識の向上を図る。

お忙しいところお話いただき、本当にありがとうございました。
今年もこれまで以上に播磨病院の各部門、先生を紹介したいと考えています。
次回のT・TAK新聞はさて何を紹介するかはお楽しみにしてください。
T・TAK新聞のバックナンバーは、「IHI 播磨病院ホームページ」
<http://www.harima-hp.jp> からご覧いただけます。

どしどし、アクセスしてみてくださいね。

by : D.K

